

1989年に約7万キロ乗ったランサーEX1400から、トヨタカムリ1800ZTに乗換えました。



エンジンは4S-FI DOHC 1838CC 105PS

この車に乗り替えた1年後の1990年にQRT状態から復帰して、240グループに仲間入りして、本格的モバイル運用が始まりました。

写真のモバイルホイップはトランクリットに取り付けた

50mhzの1/2λとルーフレールに付けた144mhz/430mhzのモバイルホイップです。



トランクリットの左側には、21Mhzのモバイルホイップがありますが写っていません。

無線機は再開局した時のIC-726Sを固定局とモバイル局の兼用で使用していました。

暫らくして、FT-690mk2の単体をモバイル用にしましたが、2.5wでは非力なので、FL-6020のリニアを追加して10Wモバイルになりました。

それでも、新青梅街道のノイズ地帯ではメリットが悪くなるので、更にHL-66Vを追加して、50Wモバイルとしました。

FT-690mk2+ FL-6020はモバイルから外して移動運用にも使用して、移動無線運用の楽しさを教えてくれたRIGです、電波伝搬実験では赤城の地蔵岳にシールドバッテリーと共に担ぎ上げてコントロール局をした事もありました。

また、430Mhzはハムフェアで中古のFT-73のFMハンディ機を仕入れて、モバイルから5Wで使用していました。



1998年、カローラ1500SEに乗換えました。エンジンは5A-FF DOHC 1498CC 100PSです。



写真は、所沢市にある通称「葡萄峠」です。移動運用スタイルは2エレHB9CVが定番で電波伝搬実験等では、アンテナの1/2λのロッドANTを取り付けて、水平/垂直の偏波を切替えて行っていました。

右下の写真は、ダッシュボードの上に乗せて、埼玉県民の森公園駐車場から、電波伝搬実験に参加した時のトリオの TR-9300+HL-66V です。

モバイル走行運用時には、センターコンソールボックスに上に取り付けて運用していました。

FT-690mk2 の PLL が不調で修理しましたが、移動運用中に不安定になるので、FT-817ND に変更しました。オールバンドオールモードの FT-817ND で、50mhz、144mhz、430mhz の移動運用は勿論ですが、HF の移動運用を始める様に、なりました、7Mhz の 1/2λ フルサイズダイポールを仮設すると、SSB の 5W 出力ですがそれなりに国内 QSO は可能でした。

開局当時の五十数年前には、10W の AM でも 1/2λ フルサイズダイポールを張って、国内全国と交信出来ましたから、やはりフルサイズアンテナは F B ですね。更に、コンディションの良い時は、車のトランクリットに取り付けた、2m 足らずのモバイルホップでも、2、0、7 エリアの近場の交信は可能でした。

奥多摩の三頭山に移動運用した際には、E スポの発生もありましたが、21Mhz の SSB で 1・6・7、8 エリアとの交信が多数できて 5W の威力に感心しました。

また、自転車の籠に FT-817ND を入れて、ハンドルにアンテナの 50mhz の 1/2λ を取付けて、多摩湖の狭山富士に自転車移動もしてみました。(右の写真はその時の様子です)

次に、2009 年カローラアクシオ 1500 に乗換えました。

エンジンは 1NZ-FF 1496CC 103PS です

アンテナは 3/8λ をトランクリットに取り付けました。

XYL からアンテナは 1 本と云われていたので 144/430 はマグネ

ット基台で間に合わせました。が、！最終的にはトランクリット 2 個の基台が取り付けられました。

無線機は、TR-9300 や FT-817ND から FT-857DM に変わり、セパレートキットによって、本体とコントロール部が分割できるので、運転席周りがスッキリする様になりました。

この FT857DM は、電波伝搬実験のコントロールを行う為に、赤城の地蔵岳に担ぎ上げて、標高 1600m 地点で 50W で Q R V しました。

電波伝搬実験終了後、10時45分から11時35分の50分間で20局から続けて呼ばれ続けました。



(写真は、梅ノ木峠)





ロケーションの良い所からのQRVは楽しいものです。

2020年、ルーミー に乗換ました。エンジン DOHC 996CC 69PS

古希を過ぎて、運転も少々不安になりましたから、サポカーの1000CCクラスを探していると、ルーミーに出会いました。

取付けが容易でないアンテナ基台も何とか取付けました、

最初の車はサニー1000 でエンジン 988CC 56PS でしたから、50年過ぎて同じクラスのエンジンで、69PS は技術の進歩には驚きます。

FT-857DM本体は助手席の下に置き、コントロールパネルはフロントのモノ入れに発砲スチロールとL金具を使って取り付けました。



また、車内スペースもサニー1000 に比べれば広く圧迫感がありません。

アンテナはルーフトップ後ろに 50Mhz の 1/4λ センターにマグネット基台で 144mhz/430mhz のアンテナを取付けています。

ルーフトップで高さが 1m70 有るので 50Mhz は 1.2m の短縮 1/4λ を取付けています。

前編で紹介した、あの狭いサニーに大人5人が乗って、埼玉、群馬、長野と走り回り、イグニッションノイズの底から聞こえてくる AM 電波に耳を傾けていた、青春時代が懐かしく思いだされます。

コロナ禍で、なかなかモバイル運用や移動運用も出来ませんが、早くコロナ終息を願うばかりです。

終わり